

令和元年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（乾隆 幼稚園）

教育目標

心身共に健やかでたくましい子どもの育成

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
	<ul style="list-style-type: none">子どもが“夢中になって遊び込む”ことを第一義に保育を考えた。年少児から年長児までの発達過程に応じた教育環境を構成することで、主体的に環境にかかわり、夢中になって遊ぶことで様々な学びを得ることができた。今後も一年間継続した子どもの学ぶ土台づくりのための取組を考える。子ども一人一人の遊びから見取り、その興味関心や行動について話し合う。心も体もバランスよく伸びるために自己肯定感を育む取組を展開したい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none">歴史のある地域に根付いた幼稚園であるので、様々なところで活動の一端は見ることができる。少人数で教職員が一人一人の子どもたちに丁寧にかかわっているところが良い。主体的に活動することや自己肯定感をつけようとしているところがわかる。季節に応じた園庭の管理をしており、行事も四季折々なので自園を誇れる気持ちが育つと考える。地域との連携を考えたときにはできるだけ協力していきたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月25日	学校運営協議会 理事
最終評価	2月27日	学校運営協議会 理事

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- 幼児が主体的に心を動かし夢中になって遊び込み、楽しさが味わえるよう環境構成や教師の援助の在り方を考え、子どもの姿から保育を見直す。
 - ・ 子どもの命を守りきるため安全環境の整備に努め、子どもが安心安全に活動できる環境づくり。
 - ・ 子どもが通いたい、親が通わせたいと思う保育内容と環境づくり。
- 子ども一人一人へのねらいをもち計画性をもった保育と子どもの姿から一日の保育を振り返り、改善していくP D C Aサイクルの確立。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 幼児の姿の変容、事例検討
- アンケート項目①「子どもは楽しんで幼稚園に通っているか」②「幼稚園の安全管理は適切だと思いますか」③「幼稚園の環境は子どもが豊かな体験ができるよう整えられている」④「めざせ100冊親子で読書（絵本）」の取組は楽しめていますか。

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none">・ 幼児の姿については、伸びの考察、検証を継続することで、保育の質を高めてきた。・ アンケート結果①A・B 100%②A・B 98% C 2%③A・B 100%④A・B 84% C 12% D 4%	
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none">・ 子どもたちは概ね楽しく園に通っている。遊具や園舎の補修には力をかけてきたが、古くても手入れがされている園環境は子どもにとっても保護者にとってもよい環境と考える。安全管理も遊具の下の安全マットを春に全面新調したことで安心感が増した。季節の野菜を植えていることにも良い評価を得ている。・ 保育の振り返りについては計画通りにはできていない。また親子読書については、冊数にこだわるのではなく、その大切さを浸透させていく必要がある。
分析を踏まえた取組の改善	
<ul style="list-style-type: none">・ ハード面の環境整備は今後も続けていきたい。また露地栽培の野菜づくり、小動物の飼育という環境も維持していきたい。遊具の日常点検や職員全員での清掃なども継続していく。・ 幼児の姿の変容を、継続的な記録を通して検証しながら園の保育を改善していく。日々の保育の振り返りを大切にする。・ 親子読書についてはその重要性を家庭に働きかけ、100冊という数字よりも本に親しむことの大切さを保護者にも浸透するようにする。園でも計画的に読み聞かせを取り入れる。	
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	
<ul style="list-style-type: none">・ 10の姿を意識し、幼児の姿を、事例検討で教職員の共通理解を深め、適切な援助や環境構成をしていく。・ 保護者アンケートや日常の保護者からの聞き取り	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none">・ 運動会が一体感があり良かった。発達段階によりいろいろな面を見せる子どもたちにかかわる教職員の姿や園児の楽しんでいる様子から日頃の保育も同様だと考える。・ アンケート結果を見ても保護者との距離の近さを感じられる。幼児期こそ本に親しむチャンスなので園での取組、保護者への働きかけを推し進めてもらいたい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none">・ 園内研修の中で「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識して、子どもの活動を見直してきた。適切に見取る力と子どもたちが「学びに向かう力」を育成していく保育を意識できた。そのための適切な援助や環境構成についてはまだ工夫の余地がある。・ 日常の保護者とのコミュニケーションを繰り返すことで保育についての振り返りはできた。	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 <ul style="list-style-type: none">・ 最も大切にしていることは、園児の健康・安全である。1年を通じて長期に欠席する園児がないなかったこと、大きなかががなかったことは大きな成果と考える（医院に行くけが1件）。これは一定の保育内容や環境整備の成果であったと考える。また、それぞれの行事、日常保育の中で教職員が個々の子どもたちの特性を把握して接しているので、子どもも楽しく、のびのびと活動することができた。次年度には教職員集団が変わっても、同様の取組ができる引継が課題であると考えている。・ 教職員同士、教職員と保護者のコミュニケーションを大切にしてきた。毎日、活動を振り返

	<p>ことができた。これは幼稚園の強みだと考える。次年度も継続したい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊具や園舎の補修等の環境整備は絶えず継続していかなければならないと考えている。露地栽培の野菜づくり、小動物の飼育は子どもたちの心の成長につながっている。日常の細かな取組は今後も継続していきたい。 子どもたちは日々成長し、様々な面を見せる。毎日、保護者に保育内容を連絡するだけでなく、子どもたちの様子を報告し、話し合うことで、教職員と共に通の思いをもつようにしていきたい。教職員は保育の振り返りに活用し、保育の改善につなげていく。 絵本の親子読書は小学校での読書週間につながる。ノーテレビ・ノーゲームデーの周知と共に形骸化しないよう働きかけ続けたい。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- 創立130周年記念式典や生活発表会からも子どもの成長がよく分かった。特に生活発表会ではそれぞれの学年の様子が見え、関わる教職員がそれぞれの発達段階に合わせていることが良かった。子どもたちが普段の保育から楽しく遊んでいること、その延長線上に生活発表会があることがよく分かった。
- 地域としても応援するので、今後も子どもたちが主体になる保育を進めてもらいたい。

(2) 幼小連携・接続に関して

具体的な取組

- 乾隆小学校、紫野小学校との年間交流計画の作成
- 乾隆小学校、紫野小学校、西陣中央小学校への保育公開、授業参観、合同研修

(取組結果を検証する) 各種指標

- 交流の事前・事後の検討内容について
- 公開保育・合同研修の回数・内容
- アンケート項目①「保幼小連携、地域との連携等を生かした取組は子どもの心の育ちにつながっていると思いますか」

中間評価

各種指標結果

- 乾隆小学校とは校長、園長が互いの学校運営協議会の委員になり、互いの取組を知り、助言し合える関係にある。日常的な情報交換をするとともに授業参観や運動会等の見学を行っている。
- 紫野小学校や西陣中央小学校の行事を参観させていただくとともに、乾隆小学校と紫野小学校については計画的に年長を中心に小学校に出向いての交流を行っている。
- アンケート結果 ①A・B 96% C 4%

自己評価

分析(成果と課題)

- 小学校との連携を管理職から、担任同士の交流につなげ、子どもたちの生活や遊びの様子を伝えることはできている。特に育成学級や低学年の担任には園の様子を実際に見に来もらった。年長を中心に小学校に出向いた交流も行っている。互いの教育の理解の機会になっていると考える。
- 課題としては、交流や連携がまだまだ単発であるところは否めない。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 園側の思いを伝え、小学校から園の様子を見ていただく機会を増やし、幼稚園教育の理解を深めていただくと共に、幼稚園側の小学校理解も進める。子どもたちに何を育てたいのか明確にし、計画的に進めていく。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流が幼稚園だけでなく、小学校にとっても意義のあるものになるように話し合いを続ける。より良い連携を構築する。 保護者アンケートや日常の保護者からの聞き取り
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に年長児はあと半年で小学校入学が待っている。子どもたちが小学校に慣れる意味でも小学校に出向く交流は大切だと思う。小学校に働きかけてできることを推し進めてもらいたい。 子どもの様子を伝えるだけでなく、小学校の先生に実際に園児の様子を見てももらうことも大切である。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育課程の柔軟な乾隆小学校の育成学級とは様々な交流ができた。子どもの行き来だけでなく、先生同士との交流も定期的にもつことができた。学習発表会を見学させていただくとともに生活発表会に来ていただいた。園内展の見学にも子どもだけでなく先生方にも来てもらい、乾隆小学校の作品展には幼稚園のコーナーをつくってもらうだけでなく、園児、教職員が見学した。 紫野小学校に年長児が行かせていただくことは定期的に行っていたが、感染症の拡大防止のため2回中止になった。担任同士の情報交換は予定通り行った。
自己 評 価	<p>分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は話し合う機会が昨年度よりも増えた。入学児童の引き継ぎは丁寧にできた。ただ、互いに見合うことはできても共に活動するところまではいかない。1, 2年生との取組は年間計画の中に位置づけられたものでなければならず、もっと綿密に話し合うことが必要になる。 本園にとって良くても、小学校に負担になるようであれば正しい連携とは言えない。幼稚園が小学校段階以降に育むべき資質・能力の基礎を育成していることを理解してもらうだけでなく、幼稚園側も小学校の取組を理解する機会を持つ必要がある。 乾隆小学校とは学校運営協議会の中でも連携が取れている。互いの取組、課題などが共有できていると考える。 小学校の研究授業など合同研修に、本園として参加する回数が少なかった。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度が替わっても、担当者が必ず引き継いでいく。単年度の取組にはしないで、長いスパンで計画していく。そのためにも担当者同士の会は定例化していくように考える。 小学校経験者の園長が自園に小学校の取組を研修の中で広め、その上で計画的に小学校にも幼稚園のことを伝えるようにする。
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心して年長児が小学校に行くためにも、円滑な接続に向けての取組はとても大切である。地域としても幼小連携がとれていることが望ましいと考えるので、教員側の交流も含めて、今後も定期的・継続的に幼小連携の取組を推進してほしい。

(3) 預かり保育について

具体的な取組

- 安心安全な環境で家庭的な雰囲気をつくる。
- 預かり保育指導計画を見直し、よい望ましい活動を実施する。
- 預かり保育を地域に周知し、果たす役割を認識し、その充実を図る。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 預かり保育の参加人数
- 預かり保育の活動や指導計画の見直し状況
- アンケート項目①「お子さんは楽しんで預かり保育に参加していますか。」

中間評価

各種指標結果

- ・ 預かり保育を利用している家庭は8割を超える。常時長時間預かりをしている家庭は1割程度になる。安心安全な預かり保育を目指すために担任や保健職員との連携を行っている。
- ・ 特にサッカー教室などのイベント日は増える傾向にある。日常の預かりの中に絵本の読み聞かせやサッカー教室を入れている。
- ・ アンケート結果 ①A・B84% C8% D4% 無4%

自己評価

分析(成果と課題)

- ・ 預かり保育が、就労の関係で幼稚園を選択できなかつた方の受け皿になっているのは確実である。ただ保育の中にもっと多くイベントを入れてほしいとの声もある。
- ・ 安心安全な預かり保育を目指しているが、担当の者は一人になるので、縦割りで人数の多い時の園全体のフォローは大切である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ 年少児の保護者から「大きい子がいるから預かり保育を嫌がっている。」とのご意見をいただいた。日によって同学年の園児がいないこともあるからだと思うが、保育の内容は絶えず見直す必要があると考える。
- ・ 預かり担当と担任や保健職員、管理職などの意思疎通は今後も一層密にしていきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・ 預かり保育の利用状況だけでなく保育活動が園児に適切なものになっているか見直す。
- ・ 保護者アンケートや日常の保護者からの聞き取り

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・ 幼稚園としては大変かもしれないが、預かり保育が園児獲得にも大切であることは確かだと思う。「早朝の預かり保育はできないのか。」との意見があった。
- ・ イベントに来ていただける地域の人材の発掘をもっと積極的にしてはどうだろうか。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

- ・ 後半、年少児の保護者も預かりを利用する頻度が増えてきた。当初嫌がっていた年少児も、同じクラスの子の預かり保育が増えてくることで楽しく通えるようになった。
- ・ 異年齢集団での遊びになるので、預かり保育はよい縦割り活動の場にもなっている。預かり保育担当者との話し合いは継続し、よりよい保育内容を考えなくてはならない。

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> 預かり保育があるということで、転入してきた園児もあった。両親が就労されているご家庭でも公立幼稚園に入れるということを示せた。 子どもも日常の保育と預かり保育の区別ができる、預かり保育では何をするのか考え、行動できるようになっている。確かにサッカーや絵本の読み聞かせのある時は、参加幼児も増えるが、今の形で問題ないと考える。
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> 人数が多い時の安全面は最重要だと考える。そのため、部屋の環境についての点検や確認と保育内容の見直しは絶えず行わなくてはならない。 預かり保育担当と担任との連携を密にもつことは大切である。子どもたちとの様子についての報告、連絡、相談を行う場は定期、不定期に必要である。

（4）子育ての支援に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園としての説明責任を果たし、保育公開や自由参観などの教育発信に努め、開かれた幼稚園づくりを推進する。
<ul style="list-style-type: none"> 地域に開かれた幼稚園として子育て支援センターとしての役割を果たすべく、子育ての悩みや疑問を相談しやすい園を目指す。
<ul style="list-style-type: none"> 園庭開放を行うことで未就園児保護者が気軽にに入る空間づくりを考える。
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援の取組回数や参加人数、教育相談件数 アンケート項目①「幼稚園だより（子どもの姿）やホームページで、幼稚園の遊びの様子や子どもの様子がわかりますか。」

中間評価

自己評価	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園は原則、保護者の送り迎えである。ほぼ毎日、園の様子を見てもらう機会がある。休日参観や運動会には保護者参加型のプログラムも入れている。また休日参観や祖父母参観の折には園長から保護者に園での子どもたちの様子を幼稚園での学びがわかるように説明している。 毎月1回誕生日会に対象園児の保護者に来ていただき、その後園長と話をする「ほっこり子育て広場」をもっている。 未就園児はさくらんぼ組として、毎週月曜日と水曜日の園の開いている日に行っている。その中で人形劇を見る行事や園の説明会に参加してもらっている。 アンケート結果 ①A・B 92% C 8%
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> 説明会の折に、写真を通して、園児の活動の様子などを説明してきた。京都市立幼稚園の「遊びの中の学び」を大切にしていることを理解していただけているのではないかと考える。家庭

価値	<p>での子どもとの関わり方について等、子育て支援につながる話もしている。個別のことについては各担任より毎日話すようにもしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 未就園児の来園は本園児の弟や妹が多い。近くに公園が少ない環境なので、園庭開放をうまく利用されている。さくらんぼ組への参加も同様の傾向がある。新しい登録者を増やすことが課題である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も保護者の方に園の様子を見てもらえる場を設定し、様々な場で話ができるような幼稚園づくりを目指す。兄や姉のいない未就園児にも園に来てみたいと思える雰囲気づくりを大切にしたい。 保護者よりホームページの更新が滞っていることを指摘されたことがあり、それを受け少しではあるが改善してきた。結果アンケートはCが減ったが、未だ足りないという声もある。ホームページを見て本園を選んだという方もいるので、発信ツールの一つとして充実を図りたいと考える。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 開かれた園として、未就園児も含め園に足を運んでもらえ、幼稚園の保育を実際の目で見てもらう。 保護者アンケートや日常の保護者からの聞き取り

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- 幼稚園の園児数を増やすために様々な方策を考えることは大切である。考えたアイデアを実際に使うために、今後も開かれた園を目指す必要がある。
- ホームページを見て説明を聞きに来る方もいるようなので、ホームページの充実は続けてもらいたい。

最終評価

自己評価	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 未就園児対象のさくらんぼ組は計画的に行えた。在園時に兄姉のいる家庭以外にも参加者は見られた。演劇鑑賞などイベントを子育て支援事業として行った時は、さらに参加者が増えた。 ほっこり子育て広場は本園の保護者対象に行っているので、懇談会や入園説明会などの場を使って子育てについて話をしたり、相談にのったりできるように取り組んできた。 地域だよりは乾隆学区のみの回覧なので学区以外には回らない。園の入り口近くに掲示することで通行される方への広報とした。
	<p>分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> さくらんぼ組に来ている方は園庭開放の活用もうまく、子育て支援の場としての幼稚園の利用をうまくされている。ただ初めて足を運ぶ方は少なかった。 ホームページを見て園に来られる方もいたので、ホームページは意識してアップしてきた。ただ年間、安定して活用できていないところもあった。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> さくらんぼ組の中にも積極的に教職員が出向いて顔を出し、互いに顔見知りの状態をつくる。少しでも来てもらいやすい開かれた園を構築する。 ホームページでの広報は、年間計画的に活用し、子育て支援にもつながるようにする。

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 近くに公園の少ない地域なので、園庭開放で未就園児に来てもらうのはよい。 本年度は新入園児が少なかったようだが、以前も園児数の少ない時期があったので、やっていることが悪いわけではないと思う。子育て支援の取組は継続してもらいたい。 ホームページの充実も今の時代は大切であろう。
-----------------------------	---

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会委員の方との情報交換や連携強化に努め、地域との連携を推進する。また積極的に地域の行事に参加するなど、地域とのつながりを大切にする。 地域の資源を活かした指導計画を作成する。 自園の取組や教育内容をHPや幼稚園地域版だよりで発信し、開かれた幼稚園づくりする。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> 日々のつながりから、地域の方の声を受け止める。 <p>アンケート項目①「保幼小連携、地域との連携等を生かした取組は子どもの心の育ちにつながっていますか」</p> <p>②「幼稚園だより（子どもの姿）やホームページで、幼稚園の遊びの様子や子どもの様子がわかりますか。」</p>

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の委員の方とは、地域行事の折など会うことも多く、その都度意見や支援策をいただいている。 地域行事の中に園児を出し、地域とのつながりをつくった。（乾隆まつりや上京区交通安全大会、嘉楽学区のいきいきサロンでの舞台コーナーに出演） 地域版の広報誌をつくり、さくらんぼ組の予定とともに地域回覧をする。ホームページでは地域行事のこととも発信してきた。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域行事には管理職ができるだけ参加し、地域の方との交流するようにしてきた。地域の方の協力も数多く得られるようになってきた。また園の運動会に来ていただき、参加してもらうことで評価もしていただいている。 地域行事に年長児を中心に参加していくことは、園の広報にもつながっていると思う。人の前に出ることで子どもたちの育ちにもつながる。ただ、「出ていくことが多すぎるのではないか。もっとゆっくり園での保育を望む」という声もあったので保護者への説明を丁寧にして理解を求めたい。 アンケート結果 ① A・B 96% C 4% ② A・B 92% C 8% <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の根差した園として、できるだけ地域行事には顔を出していきたい。そこで出会う地域の方とコミュニケーションをとり、評価をいただくことで本園の改善につなげたい。 子どもたちの参加できる地域行事については、できるだけ参加していく。ただ出演ありきで本末転倒にならないように、参加内容は日常保育の延長であるように考える。 地域版園だよりには見てわかる紙面づくりをしていく。園の前にも掲示する。

	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の幼稚園として、地域の方の理解や協力が得られるようとする。学校運営協議会での意見や支援策を活かす。 ・ 保護者アンケートや日常の保護者からの聞き取り
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会に参加する子どもの楽しげな姿から、日常の保育の良好な様子が見えた。地域の方の参加も考えていたのがよかったです。 ・ 幼稚園としての発信も続けてもらいたい。

最終評価

	中間評価時に設定した各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域には、何世代にもわたり乾隆幼稚園出身の方がおられる。130周年の記念式典に関しても様々なご支援ご協力をいただいた。小学校と共に歴史ある幼稚園がよりよくなることへ地域の方の見る目も温かい。特に学校運営協議会の委員の皆様には建設的な意見をいただけた。 ・ 地域の行事や日常の生活の中で地域の方と出会い、お話を聞く機会は少なくない。その中には園への助言が含まれていることもあり、園運営に活用できた。
自己 評 価	分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度後半も地域の行事に管理職が出ていくことができた。特にもちつき大会では、本園の子どもたちも参加しており、学区が違う子も参加できることで地域と幼稚園の関係ができる。もちつき道具も本園のもちつき行事に貸していただくなど交流は続いている。本年度は130周年記念行事もあり、乾隆小学校150周年と共に多くのご支援ご協力をいただいた。 ・ 地域から糸を提供していただいたり、子ども機織機のメンテナンスをしていただいたりしながら年長児が今年も機織体験ができた。 ・ 年度末は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため地域関係のものは中止になったものが多いが、次年度の年間計画には入れておかなければならないと考える。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ 昔遊びや伝統文化についての活動は地域の方の協力が不可欠である。ほかに何ができるのかを含め、より計画的に行っていきたい。例年できているから、今年もできるとは考えずに、毎年計画段階での確認は必要である。 ・ 働き方改革で難しい面もあるが、地域には管理職以外にも顔が出来るともっと親しみやすい園になると考える。

(6) 業務改善・教職員の働き方改革について

重点目標	教職員一人一人が勤務時間を意識し、子どもと向き合う時間を十分に確保する。
------	--------------------------------------

具体的な取組

- 働き方改革の研修を行う。
- 会議の効率化と分掌の適正化を図る。
- 教職員それぞれが声を掛け合う同僚性を高める。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 教職員の勤務時間と働く意欲
- 年休取得率

中間評価

各種指標結果

- ・ どの教職員も自分の仕事について意欲的に取り組んでいる。チームとして互いの協力体制もできている。
- ・ いわゆる時間外に働く時間は減ってきてている。
- ・ 年休取得率は昨年並みである。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・ 働きやすい職場を目指してきた。同僚性を高めることで各教職員の意欲は高まったと考える。個々の仕事内容は違うが、声を掛け合うことで一人にかかる負担軽減ができるつつある。
- ・ どうしても一部の者の負担が大きいところは否めない。
- ・ 日々、働き方改革の考えを周知することで、残業を減らすことや休みがとりにくい雰囲気のないように努めてきた。はっきりと数値に効果が見えていないところが課題である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ 一人一人が意欲的に働くことで、ストレスの少ない職場づくりをする。それを通して仕事の効率化を図る。
- ・ 誰かが休んでもカバーのできる職場づくりを行う。
- ・ 働き方改革の意識をもち、効率化することは大切だが、仕事の質を落とさないようにしなくてはならない。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・ 教職員一人一人が働き方改革の意識をもつようになる。
- ・ 教職員の勤務時間と働く意欲
- ・ 年休取得率

学校関係者による意見・支援策

- ・ 春の異動で大幅に教職員が入れ替わり、また途中でも入れ替わる教職員がいるが、働き方改革についても推進できるよう努力してほしい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

- ・ 教職員一人一人が働き方改革の意識をもつようになるため、研修や会議の中で共通理解するとともにその時間も短縮するようとする。
- ・ 互いに仕事内容を理解し合い、協力体制を構築することで、教職員の勤務時間の適正化とそれに伴って働く意欲が増すようとする。

	<ul style="list-style-type: none"> 年休取得率については自分の管理だけでなく、管理職が個別に助言する。
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きやすい職場づくりは、最重要課題である。それは絶えずコミュニケーションをとり、ハラスメントのない職場であると考える。個々の仕事内容は違うが、声をかけ合うことで仕事内容が理解され、各教職員の意欲は高まった。 今年度、途中で職員数が不足する時期があった。また代替教員になること也有った。そうなると仕事が一部の者に集中し、負担が多くなったことは否定できない。 全体にかかる研修や会議は時短できたが、個々の仕事については、教職員一人一人が、仕事の軽重、優先順位を付けられるよう能力を高めなければならない。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 預かり保育担当者など同じ時間帯に打合せできない者には特に、各教職員が意識してコミュニケーションをとる。同じ情報をタイムリーにもつことでストレスの軽減を図る。 1年間の中で、当初との変更があった時に、一人にしわ寄せのいかないレジリエンスを念頭に置いた幼稚園づくりを行う。 働き方改革を実践しながら、保育の質を落とさないための人材育成を年間通じて行う。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員同士仲もよく、互いに指摘し合える風通しの良い職場であるように聞いている。 繁忙期には仕事が集中するので、やらなければならないこと、やったほうがよいこと、やらなくてもよいことなど仕分けることが大切ではないでしょうか。